

(五) 大川区有文書

町文化財 平成二十九年四月指定

大川公民館には、江戸から昭和時代の区有文書がおよそ三二〇〇点所蔵されています。

古い文書は虫に食われたり、湿気により腐ったりして読めない部分がありますが、大川区が大切に保管し、村の人々の生活の様子や歴史が刻まれている貴重な記録です。

江戸時代の文書はおよそ二五〇点あり、一番古いものは、江戸時代前期の元和・寛永年間（およそ四〇〇年前）に、江戸城石垣の普請を命じられた大名や旗本から大川村名主の飯田助左衛門に宛てた八通の手紙です。

元和六年（一六二〇年）の手紙は、二名の旗本から「有馬直純の残した石二〇〇個を江戸へ運ぶように。」と、寛永十二年（一六三五年）の手紙では、九人の大名が連名で「石丁場を引渡すように。」と命じています。

築城石を切り出した地元からこのような文書が発見されたのは、全国的にも珍しいこと

です。

天明四年（一七八四年）の飢饉の時は、「稲が不作のために来年の苗を作る種籾が無く、買う金も無いので貸してほしい。」と役所へ嘆願書を出しています。

文化十二年（一八一五年）九月には、北川から赤沢までの海岸を大川村が測量した記録帳があり、第九次伊能忠敬測量隊が下田から伊東方面に向けて測量した二ヶ月前のことです。

嘉永五年（一八五二年）には、時宗総本山藤沢遊行寺の遊行上人が江戸幕府の朱印状を持ち、大勢の僧を連れて念仏布教の旅の途中、大川村に宿泊しました。

この時、大川村には「馬五〇頭、人足五〇人を用意するように。」との先触が来ていました。が、大川村だけでは用意できないため、稲取村から大川村までの村役人が奈良本に集まり相談したことや、代官所から役人を派遣するという文書もあります。

また、江戸時代の大川村の様子がよくわかる村絵図十一枚や、領主に納める国役金・運上

金等の受取証、その他、村内で起きたいろいろな出来事が書かれた文書も残されています。

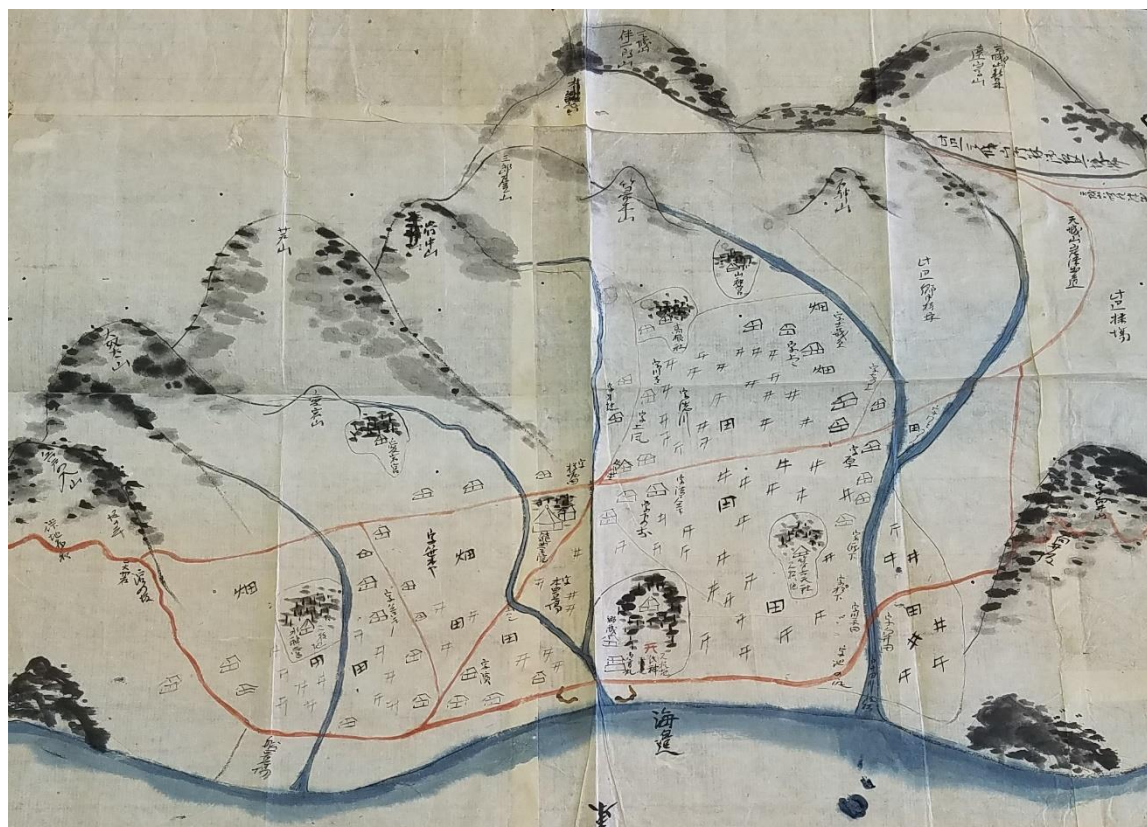
三年の「暁鐘新報」等の新聞が保存されています。

明治時代の文書は一八〇〇点を超えており、その多くは地租改正に伴う測量図、国・県・郡役所・村役場からの布達や通知等ですが、学校関係では、大川学舎（枕流舎）が明治六年八月十八日に開校した日からの出席簿、明治十年の大川学舎や奈良本学舎・片瀬学舎の時間割表、明治十二年には稲取村から富戸村までの九ヶ村で小学校へ通えた子供と通えない子供の数を調査し、県へ報告しています。

明治二年には、白田村硫黄鉾の「硫黄採掘差止願」を国や県に出したこと、明治十年の「稲取村々会規則」、奈良本村や片瀬村の徴兵検査の名簿等も保管され、近隣の村々の様子もわかります。

また、明治初期には全国的にコレラが大流行したため、明治十二年には賀茂郡にコレラ患者が入らないよう、伊東方面からの旅人を消毒する検疫所が大川村に設けられました。

これらの文書以外にも、明治二十二〜二十



Handwritten Japanese text on aged, torn paper. The text is written in cursive (sōsho) style. The right side of the page contains a large, bold heading, possibly "一休皇太子" (Prince Shikoku). Below this, there are several columns of text, some of which are written in a more formal style. The left side of the page features a list of names or titles, each preceded by a small character, possibly indicating a rank or title. The paper is heavily aged and shows significant wear, including tears and discoloration.

